

平成29年度 学校評価アンケートのまとめ

円グラフの色及び数字は以下のことを示します。

1：そう思う 2：だいたいそう思う 3：あまり思わない 4：そう思わない 5：わからない



(平成29年12月実施)

I 健康・体力について

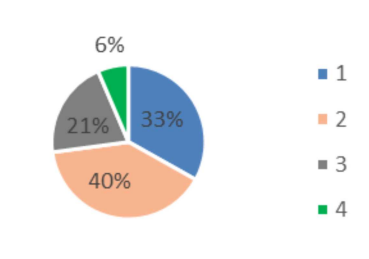
II 安全確保・施設整備について

1 基本的な生活習慣

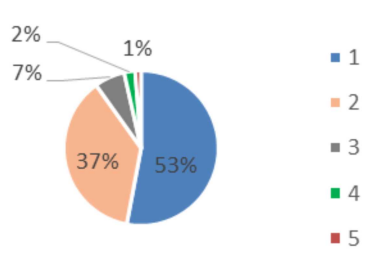
○あなたは、早寝、早起き、朝ご飯を実行していますか。(児童)

○お子さんに、十分な睡眠をとらせるとともに、毎日朝ご飯を食べさせている。(保護者)

児童



保護者



〈考察と今後の方針〉

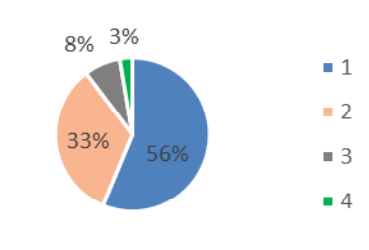
- ・昨年同様、子どもに睡眠や朝食をしっかりとらせることについては、保護者の回答は90%と高い。一方、児童の意識は73%と前年を下回った。保護者への協力は引き続きPTA集会や通信などで依頼しながら、児童が睡眠と食事の大切さを実感できるよう、次年度以降も学活や保健の授業を工夫をしたい。
- ・また、学校保健委員会でテーマとして取り上げるなどし、全校児童に啓発していきたい。

2 健康・安全の意識

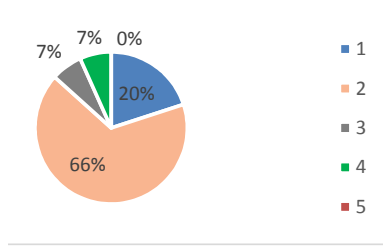
○あなたは、手洗い・うがいなど健康面に気を付けて生活していますか。(児童)

○児童は、「手洗い、うがい、歯磨きを積極的に行う」など健康に対する意識が高い。(教員)

児童



教員



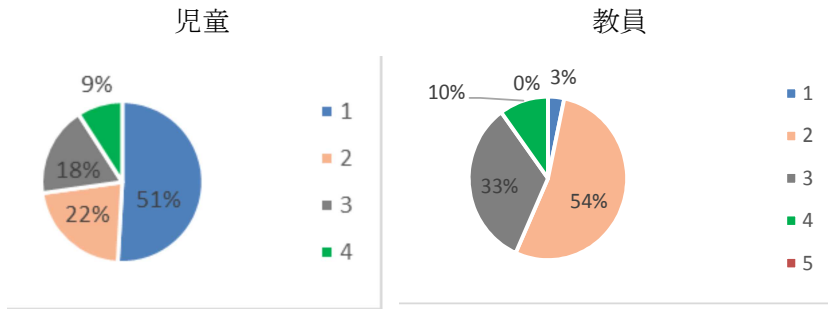
〈考察と今後の方針〉

- ・本年度、児童の意識についても初めて調査したが、健康面に気を付けて生活しているという児童が約9割となった。教員から見た児童の様子も良好であることが分かる。引き続き日常での指導を徹底したい。インフルエンザの流行期には、手洗いうがいを特に意識づけたい。
- ・保健委員会児童による集会等での啓発も継続したい。

3 体力づくり

○あなたは、休み時間や放課後に進んで体を動かしていますか。(児童)

○本校では、年間を通じて児童の体力向上に向けた取組をよく行っている。(教員)



〈考察と今後の方針〉

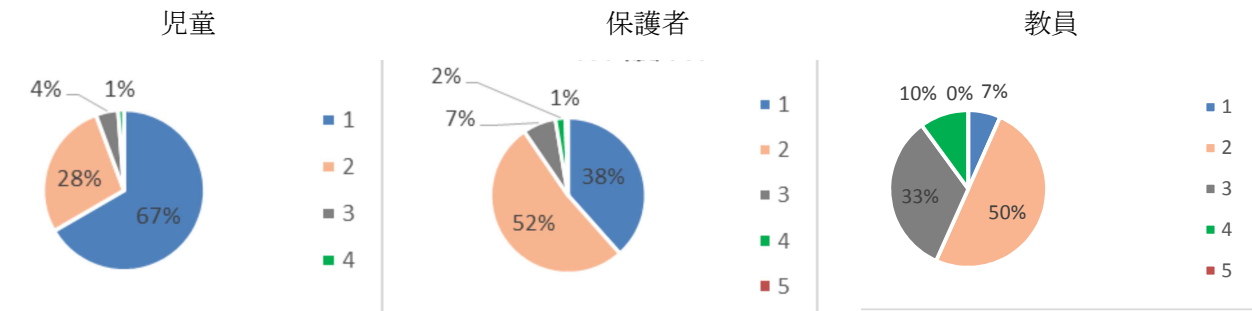
- ・休み時間や放課後に体を動かしているという児童は、昨年とほぼ同じ割合であった。教員は、年間を通じた児童の体力向上への取組について 57 %が肯定的であるが、「あまり行っていない」と考える教員も約 4 割いる。
- ・リレー大会、運動会、なわとび大会と学期ごとの核となる行事を目指して、体育の授業や休み時間等、子どもたちはよく頑張っているが、学校をあげての児童の体力向上策については、朝活動や休み時間の使い方も含めて、全教員で話し合っていく必要がある。
- ・休み時間や放課後に自由遊びを企画するようになったところ、毎日のように外で遊ぶ機会が増えたという学級もあるので、他学級においても参考にしたい。

4 安全確保

○あなたは、学校での生活や登下校時、安全面に気を付けて生活していますか。(児童)

○交通安全や火災・地震・不審者対応について、家庭でも指導している。(保護者)

○児童は、「安全に登下校する」「廊下を走らない」など、安全に対する意識が高い。(教員)



〈考察と今後の方針〉

- ・「安全を考えて登下校している」と回答した児童が 95 %いるのに対して、「児童は安全に対する意識が高い」と考える教員は 57 %である。昨年の同項目 33 %から見れば、教員の評価は上がっているが、廊下の歩行やインターロッキングの歩行の約束が守られていない現状を指摘する教員もいる。このことについて、各学年、学級で折に触れて意識付けを図る必要がある。
- ・登下校時の歩行の仕方、乗降や待ち方も含めたバスの利用の仕方についても、再度指導を徹底したい。
- ・保護者の 90 %が、家庭での安全面の指導について高い意識を持っていることが伺える。今後とも、家庭での指導も継続して行っていただけるよう働きかけたい。

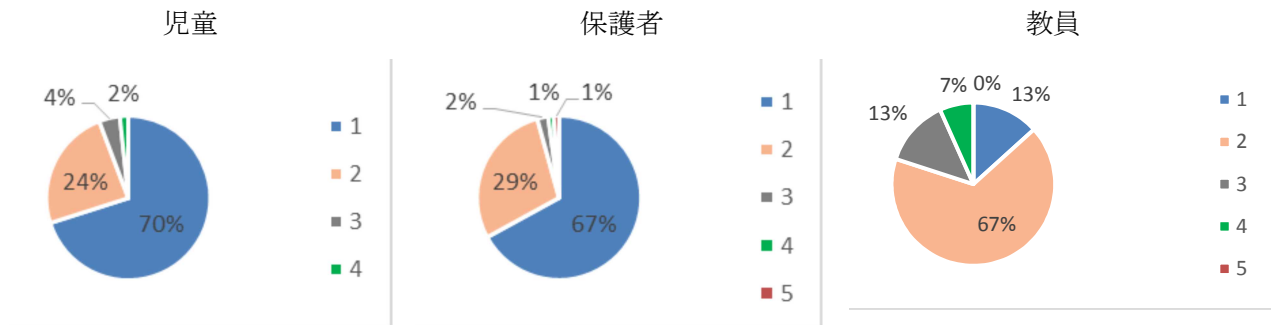
Ⅲ 豊かな心について

5 あいさつ・言葉遣い

○あなたは、進んであいさつできていますか。(児童)

○家族や地域の人に対してあいさつするよう指導している。(保護者)

○児童は、進んであいさつをしている。(教員)



〈考察と今後の方針〉

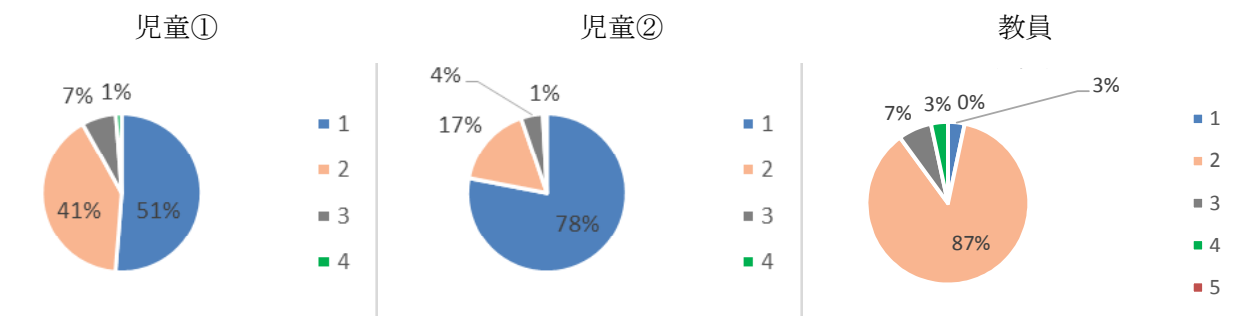
- ・あいさつについては、できていると考える児童、保護者がともに9割を超え、高い数値であった。また、昨年は児童が進んであいさつしていると感じている教員が少なかったが、今年の調査では、80%が児童がよくあいさつができると評価している。
- ・朝の校門でのあいさつ指導も含め、あいさつについては、教員が今後も粘り強く指導したり範を示したりするよう心がけたい。また、来校者や地域の方へのあいさつについてもしっかりできる子どもに育てたい。

6 いじめのない温かな人間関係

○あなたは、友だちの立場や気持ちを考えて、やさしい言葉をかけたり、接したりすることができますか。(児童①)

○あなたは、友だちと仲良く学校で過ごすことができますか。(児童②)

○児童は、相手の立場や気持ちを考えた親切な言動がとれている。(教員)



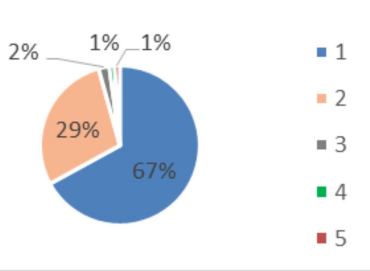
〈考察と今後の方針〉

- ・友だちの立場や気持ちを考えた接し方や、友だちと仲のよい生活ができている児童の割合は、昨年同様、今年も高かった。
- ・ただ、教師や保護者の見えないところで、いじめに発展する子ども同士の関係があることも考えられるので、毎月のいじめアンケートも活用しながら、引き続き注意深く児童の様子を見ていく必要がある。

7 学校のいじめ対応

○学校はいじめ防止に向けた様々な対応や、いじめが起こったときの解決に向けた素早い対応等をよく行っている。(保護者)

保護者



〈考察と今後の方針〉

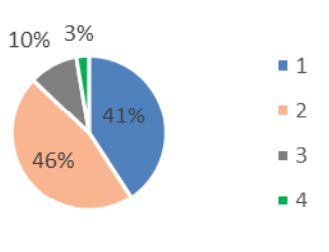
- ・今年から新しく調査項目に加えたものであるが、学校はいじめ防止に対する取組やいじめへの対応については、高い評価をいただいた。全教員の共通理解のもと、学年を中心とした迅速で丁寧な対応が、この結果につながっていると考ええる。
- ・今後も、いじめの未然防止や早期発見、いじめがあった場合の対応について全員で共通理解をしながら進めていきたい。

8 学校や家庭のルール

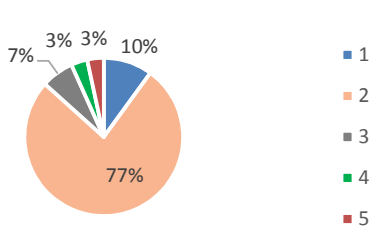
○あなたは、校舎内を走らないなど決まりを守って学校生活を送っていますか。(児童)

○児童は、決まりを守って行動できている。(教員)

児童



教員



〈考察と今後の方針〉

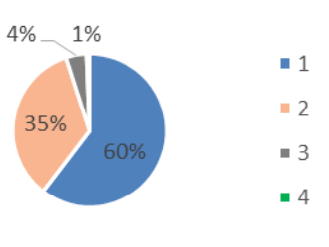
- ・「(校内で) 決まりを守って生活している」と回答した児童、また、「児童は決まりを守って行動できている」と考える教員が、ともに 87 % である。

- ・しかし、「名札のつけ外し」については、まだ徹底できていないと考えている教員もいるので、全員で指導を確認したい。

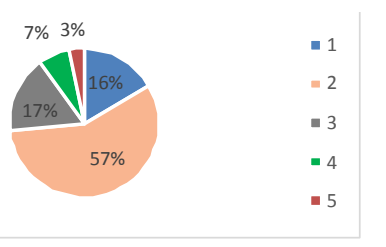
○あなたは、清掃活動にまじめに取り組んでいますか。(児童)

○児童は、清掃活動にまじめに取り組んでいる。(教員)

児童



教員



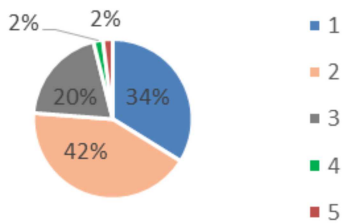
〈考察と今後の方針〉

- ・「清掃活動にまじめに取り組んでいる」(今年初めて調査した項目) と回答した児童は 95 % と高いが、そう考える教員は 73 % 止まりである。
- ・「掃除の仕方の不統一」、「教員の指導不足」を感じている教員もいるので、清掃指導については、全教員で改めて話し合う必要がある。

9 家庭での役割

○お子さんに、家族の一員として家庭内の役割（お手伝いなど）を与えている。（保護者）

保護者



〈考察と今後の方針〉

- ・「家庭内で子どもに役割を与えている」という保護者は、昨年をやや下回り 74 %であった。家族のために自分が役に立てたという経験をさせることは、児童の自己有用感を育てるためにも大切なことであるため、その大切さについて、学年・学級集会、学年通信等で折に触れて話題にしていきたい。

・長期休業前に学校から配付する「〇〇の〇休み」、学期はじめに児童が作るめあての振り返りもしっかり行わせたい。また、道徳の中での関連項目の学習の様子も家庭に知らせていきたい。

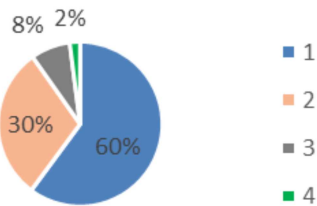
IV 確かな学力について

10 学習意欲

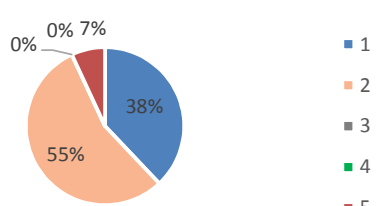
○あなたは、学校で積極的に授業に参加していますか。（児童）

○児童は、どの教科についても意欲的に学んでいる。（教員）

児童



教員



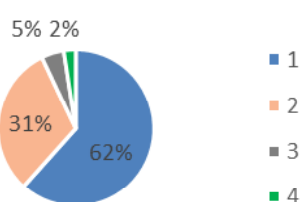
〈考察と今後の方針〉

- ・児童の主体的な学習への取組については、児童、教員とも高い数字であった。今後とも児童に問いをしっかりとせると共に、体験的な学習や問題解決的な学習を通して、児童の学ぶ意欲を高められるようにしたい。
- ・これまで同様、各教科等の年間指導計画を合科的な視点から見直し、各教科等の学習を関連づけながら授業を実施できるようにしたい。

11 学習意欲

○あなたは、授業がよく分かりますか。（児童）

児童

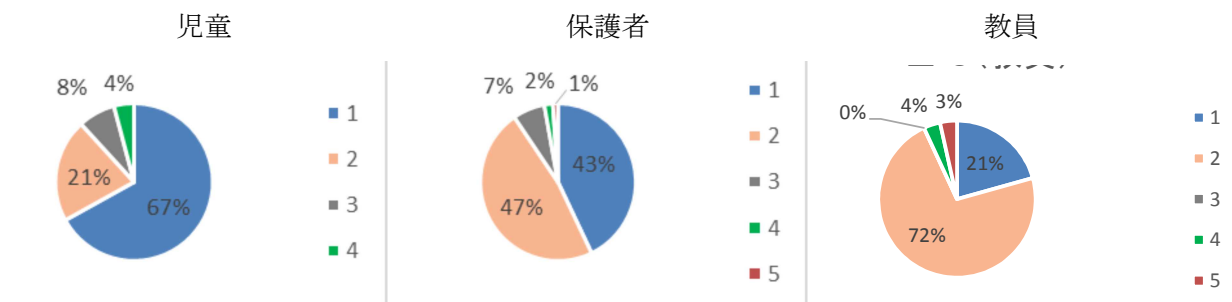


〈考察と今後の方針〉

- ・児童の 93 %が「授業が分かる」と回答している。
- ・学習の終末の振り返りもしっかり行わせ、学習への充実感や次の学習への期待感等を高められるようにしたい。

1 2 学習習慣

- あなたは、家でだいたい毎日30分以上勉強をしていますか。(1・2年生は20分以上)(児童)
- 家庭学習の習慣が身に付くよう、家庭でも指導している。(保護者)
- 児童は、授業における学び方が身についている。(教員)



〈考察と今後の方針〉

- ・児童の「授業における学び方」は、身に付いていると考える教員が93%と昨年同様に高かった。
- ・「共に分かるプロジェクト」を含め、児童の発達段階や実態に合わせた学び方を今後も定着させたい。
- ・「家で30分以上勉強している」と回答した児童が昨年よりやや減ったが、9割近い数字である。保護者も9割が「家庭学習について指導している」と回答している。
- ・宿題やがんばりノートへの取り組みせ方については、さらに全教員での共通理解が必要である。また、授業の終末での振り返りの内容をがんばりノートにつなげさせる等の指導も今後さらに工夫できるとよい。

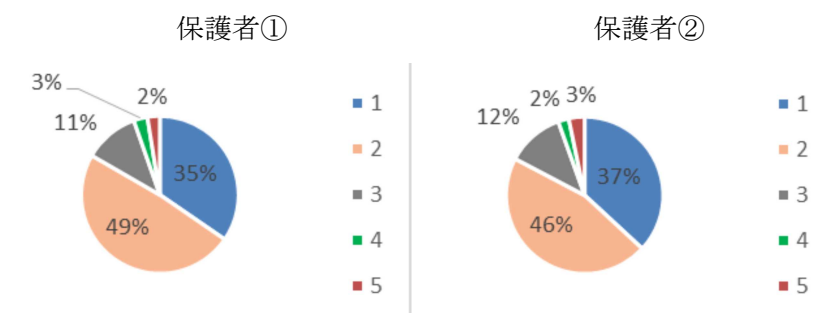
V 保護者等と学校との連携について

1 3 保護者への情報提供

○学校の様子やお子さんの成長の様子がわかりやすく伝えられている。(保護者①)

1 4 保護者への対応

○学校に対して、連絡や相談がしやすいと感じる。(保護者②)



〈考察と今後の方針〉

- ・保護者と学校との連携について、「子どもの成長が分かりやすく伝えられている」と思う保護者が昨年を上回り、84%となった。「そう思う」の割合も増えた。

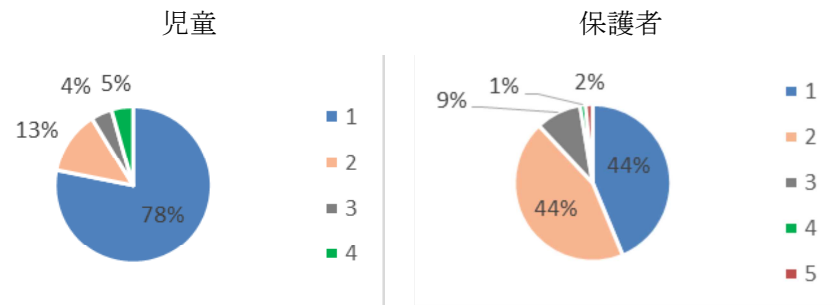
- ・今後も意識的に子どものよい点や成長を家庭に伝えることを行い、家庭との連携を深めたい。
- ・「学校に対して連絡や相談がしやすい」と考える保護者は昨年とほぼ同じで83%であったが、「そうは思わない」という保護者も14%と昨年同様の数字であった。

IV 進路・生き方について

15 夢や希望

○あなたは、将来の夢や希望（どんな職業に就きたい、どんな道に進みたいなど考えたことがある）をもっていますか。（児童）

○お子さんの将来の夢や希望などについて、お子さんと一緒に家庭で話題にしている。（保護者）



〈考察と今後の方針〉

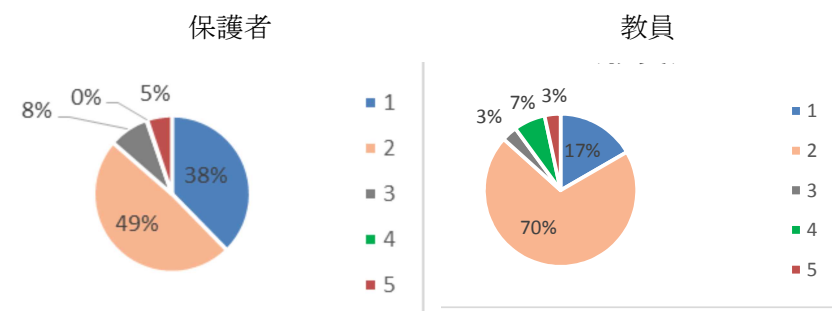
- ・児童の9割が、「将来の夢や希望をもっている」と回答し、保護者も約9割が、「将来の夢や希望について家庭で話題にしている」と回答している。この数字が高いのが本校の特徴である。
- ・このことについては、意識的に家庭で話題にさせていただくよう今後とも依頼すると共に、児童が将来の夢や希望をもてる指導を学校でもさらに工夫したい。
- ・本校出身の先輩で、自分の夢に向かって頑張っている人などを招いて講演をしていただくなど、行事を見直すことも検討できるとよい。

VII 組織・運営について

16 PTA活動

○PTA活動は、子どもや保護者のために役立っていると感じる。（保護者）

○PTA活動は、子どもや保護者のために役立っている。（教員）



〈考察と今後の方針〉

- ・「PTA活動が子どもや保護者の役に立っている」と考える保護者は86%、教員は87%であり、昨年とほぼ同じ数字である。
- ・保護者の学校行事や学年行事への協力や参加率が高い学校であるが、PTAの委員会によっては、会議の回数が他よりかなり多い委員会もある。このことについては、会議の内容や回数を見直す必要がある。会議の開催通知はメールで行う、会議の内容によっては紙上開催とするなども検討したい。